

新潟歯学会会則

(名称)

第1条 本会は新潟歯学会 (Niigata Dental Society) と称する。

(目的)

第2条 本会は歯学の研究を推進し、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 集会の開催
- 二 会誌の発行
- 三 その他本会の目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 本会の目的に賛同するものは会員となることができる。会員を分けて正会員、名誉会員、臨時会員、学生会員、および賛助会員の5種とする。

- 一 正会員 歯学研究者および新潟大学歯学部学生、大学院生、または評議員の紹介による入会希望者
- 二 名誉会員 本会に功勞のあったもので、評議員会により推薦されたもの
- 三 臨時会員 一時的に会員となることを希望する者
- 四 学生会員 新潟大学歯学部学生の入会希望者
- 五 賛助会員 本会の目的に賛成し、本会に対して相当の寄付をしたもの、または団体

(入会)

第5条 正会員、臨時会員あるいは学生会員になろうとするものは、その年度の会費を添えて、所定の申込書を本会事務局に提出しなければならない。

賛助会員の入会は評議員会の承認を経なければならない。

(退会)

第6条 会員で退会しようとするものは、その旨を事務所に届け出なければならない。ただし、既納の会費はこれを返還しない。

(会員の権利と義務)

第7条 正会員および名誉会員は会誌の配布を受け、会誌に投稿し、本会の開催する集会に出席して、研究発表を行うことができる。

臨時会員および学生会員は会誌に投稿し、本会の開催する集会に出席して、研究発表を行うことができる。

賛助会員は本会の発行する会誌の配布を受ける。

2 会員は所定の会費を前納しなければならない。ただし、会員が学生あるいは歯学の研究のために来日中の外国人留学生である場合、またはその他の事情がある場合には、理事会により、一部を免除することができる。

名誉会員は会費の納入を免除する。

(会員の資格の喪失)

第8条 会員は次の理由により、その資格を喪失する。

- 一 退会

二 2年以上会費を滞納した場合

三 評議員会により、本会の名誉をきずつけ、または目的に反する行為があったと判定された場合。

(役員)

第9条 本会に次の役員をおく。

- 一 会頭 1名
- 二 副会頭 1名
- 三 理事 数名
- 四 評議員 若干名
- 五 幹事 数名
- 六 会計監事 2名

第10条 会頭は歯学部長とし、本会を代表し、会務を総理する。

第11条 副会頭は会頭が指名するものとし、会頭を補佐する。また会頭事故あるときは、その職務を代行する。

第12条 評議員は次のものをもってあて、会頭がこれを委嘱し、本会の運営に必要な事項を審議する。

- 一 新潟大学歯学部教育を担当する分野等から推薦された教員
- 二 新潟県歯科医師会長から推薦された会員若干名
- 三 会頭から推薦された会員若干名

2 評議員の任期は2年とする。

第13条 理事は評議員の互選により選出し、庶務、会計、編集、集会等の任務を分担処理する。

第14条 幹事は各理事により推薦され、理事のもとにそれぞれの実務を分担処理する。

2 幹事の任期は1年とする。

第15条 会計監事は正会員および評議員のなかから会頭が指名し、総会の承認を得るものとする。

2 会計監事の任期は2年とする。

(集会)

第16条 集会を総会および例会とする。

2 総会は毎年1回開催し、諸報告、議事、学術上の講演、討論を行う。

3 例会は毎年数回開催し、学術上の講演、討論を行う。

第17条 集会における学術上の講演は、本会会員および本会の要請したものに限るものとする。

(会誌)

第18条 本会は会誌として、新潟歯学会雑誌 (Niigata Dental Journal) を年2回発行する。

第19条 新潟歯学会雑誌の編集および投稿は、別に定める規定による。

(会計)

第20条 毎年度の予算決算は評議員会の承認を経て、総会に報告されるものとする。

2 本会の会計年度は1月に始まり12月に終わる。

(事務所)

第21条 本会は新潟大学歯学部事務局をおく。

(改則)

第22条 本会会則の改正は総会において、出席会員の3分の2以上の承認を必要とする。

付則

本会は第1回総会において制定され、1968年1月1日より適用する。

改正

2004年4月24日総会にて一部改正。

新潟歯学会雑誌編集規定

1. 本誌に発表する論文は、本会会員のもので本会の目的に達し、未公刊のものに限る。
2. 本誌の欄を次のように分ける。総説、原著、臨床、資料、紹介、文献集録、学会記事、講演抄録、雑報、その他。
 - (1) 総説は編集委員会の依頼によるもので、原則として400字詰20枚以内とし、掲載料は無料とする。
 - (2) 原著は印刷頁4頁(図表3コ以内)までを無料とし、超過した分および別刷代については、実費を著者負担とする。
 - (3) 総説、原著以外は、印刷頁2頁(図表3コ以内)までを無料とし、超過した分および別刷代については、実費を著者負担とする。
 - (4) 学会講演抄録は新潟歯学会の総会および例会の講演抄録とする。
 - (5) 掲載は原則として受付順とするが、原稿の採否および編集は新潟歯学会雑誌編集査読委員会に一任されたい。

新潟歯学会雑誌投稿規定

1. 和文原稿は400字詰原稿用紙に平かな、現代かなづかいを用い、わかりやすい文章で横書き、楷書でかく。

ワードプロセッサ使用の場合はA4版用紙に25×45行の1,125字で印字する。

表題、著者、所属(主任、指導者名)を和文、英文でつける。特別な術語以外は、当用漢字の範囲内にとどめ、区切句読を明らかにし、改行の際は1字さげて書き始める。

5語以内のキーワード(和語または英語)を記入する。

原著および臨床論文においては目的、方法、結果および結論を400~600字にまとめた和文抄録ならびに250語程度の英文抄録をつける。

原稿と抄録に加え、それらと同一内容を記録したフロッピーディスク(FD)を添付する。添付の条件については別に定める。
2. 英文原稿は、A4版タイプ用紙を用い、ダブルスペースでタイプする。

表題、著者、所属(主任、指導者名)を英文、和文でつける。

5語以内のキーワード(英語)を記入する。

なお、原著および臨床論文においては250語程度の英文抄

録ならびに400-600字程度の和文抄録をつける。

フロッピーディスクの添付については前記1に準ずる。

3. 原稿は、校正刷りにおいて内容の改正を要しないように充分推こうの上提出されたい。

なお、著者による校正は、原則として2校までとし、その際には字句の著しい変更、追加、削除は認められない。

4. 外人名は原名綴りのままでかき、その他の外国名は原字または片かなでかくこと。わかりやすいブロック体(またはタイプ)とする。
5. 表、図(写真含む)は、それぞれ用紙サイズをそろえてB5版またはA4版用紙を用いて1枚に1点ずつ明瞭に作成し、縮小率を明記すること。図・表挿入箇所を本文欄外に朱書する。図・表の最大印刷寸法は別に定める。

総説におけるカラー写真は1頁までを無料とし、総説以外のカラー写真は著者負担とする。

6. 引用文献は引用順に番号を付し本文のおわりにまとめ、次の記載法による。

雑誌：著者名、表題、雑誌名(正式な略誌名、たとえば日本医学図書館協会目録およびIndex Medicusによる誌名を使用)、巻、頁(始めと終りの頁)、年。

- 1) 藤田恒太郎：歯の計測基準について。人類誌, 61: 27-32, 1949.
- 2) Schultz-Haudt, S. D. and Scherp, H. W.: The production of chondrosulfatase by microorganisms isolated from human gingival crevices. J. Dent. Res., 35: 299-307, 1956.
単行本：著者名、書名、版、引用頁、発行社、発行地、発行年。
- 3) 秋吉正豊：歯周組織の構造と病理。274-277頁, 医歯薬出版, 東京, 1968.
- 4) DeRobertis, E. D. P., Nowinski, W. W. and Saez, F. A.: Cell biology. 4th ed., p. 166-185, W. B. Saunders Co., Philadelphia and London, 1965.
- 5) 中尾 真：膜の機能。「生体膜の生化学」小田琢三, 佐藤了, 中尾真(編), 64-65頁, 朝倉書店, 東京, 1969.
- 6) Bowen, W. H.: Dental caries in monkeys. In advances in oral biology, ed. Staple, P. H., Vol. 3, p. 185-216, Academic Press, New York and London, 1968.
英文原稿における引用文献も和文原稿に準じるが、和文引用文献は最後に(in Japanese)を付記する。
7. 度量衡の単位は、m, cm, mm, μm , ℓ , $\text{m}\ell$, $\mu\ell$, kg, g, mg, μg 等を用いる。
8. 本誌掲載の著作物の編集著作権は新潟歯学会に帰属する。但し、論文の内容については著者が責任を負う。
9. 原稿の送り先

〒951-8514 新潟市学校町通2番町5274

新潟大学歯学部内

新潟歯学会編集幹事 宛

投稿の手引き

投稿票について

論文投稿時に投稿票を添付して下さい。投稿票は、雑誌の巻末にありますので、切り取って記入し、論文と一緒に提出して下さい。特に筆頭著者と連絡担当者が異なる場合は、連絡先を忘れず記入して下さい。また、別刷の希望、著者負担分請求方法についても記入して下さい。

承諾書について

論文投稿時に著作権に関わる委任承諾書を提出して下さい。用紙は投稿票と一緒に巻末にあります。

フロッピーディスクの添付について

新潟歯学会では、本誌投稿原稿ならびに抄録と同一内容を記録したフロッピーディスクを添付することいたしました。パソコン、ワープロとも機種やソフトは問いません。

入力・投稿時の留意事項

1. すべてを一つのファイルにされても結構ですが、英文抄録、文献、付表および付図説明等はそれぞれ別のファイルにされた方が便利です。付表および付図説明は、すべての図表のものを一つにまとめて結構です。ファイル名はわかりやすい名前をつけてください。
2. フロッピーディスクに、投稿者の氏名、所属、タイトルおよび記録方式を明記して下さい。
例：(パソコン)
ハード NEC9801
ソフト 一太郎V.4
(ワープロ)
富士通オアシス100FX
3. 事前にファイルの整理を行い、不要なデータが残っていたり、必要なデータが抜けていたり、データの順序がバラバラであったりしないようにお願いします。
4. ファイルのリストを添付してください。データの順序が異なる場合は、リスト上に番号をつけてください。
5. フロッピーディスクは必ずバックアップをとるようお願いします。
6. 文字データ以外は変換できませんので、罫線、図表等は入れないでください。
7. 数字・英文は半角で入力し、英文では単語間のスペースは半角に統一して下さい。
8. 改行マークは、段落の最後のみ入力して下さい。
9. 必ず一段落で入力し、字詰めは一定にして下さい。
10. 外字（JIS第一水準、第二水準以外の文字）および修飾文字は、出力の際に正しく出ませんので、校正原稿で赤字で記入してください。
11. フロッピーディスクは、傷めることのないようケースに入れるか厚手のボール紙に挟んでください。

図表の大きさについて

1. 図・表の最大印刷寸法は、16.7×20.5cmです。これは、A4

版での最大寸法ですので縮小率記入の際にご注意下さい。

英文抄録等について

1. 第25巻より、和文論文では、和文題名、和文著者名、英文題名、英文著者名、英文抄録、和文抄録、本文の順に掲載し、英文論文では、英文題名、英文著者名、英文抄録、和文抄録、本文の順に掲載します。原稿の順番をこれに揃えてご提出下さい。

別刷りについて

1. 別刷りは、すべて著者負担になります。別刷りの希望数、表紙付きか否か等が投稿時に不明な場合は、必ず最終校正までに申し込んでください。
2. 別刷り希望の場合、最少部数は50部です。

ご著書の著作権の予備登録のお願い

学術著作権協会 研究者著作権審議委員会 委員長 黒田 晴雄
複写機が技術的にますます進歩し、爆発的に普及が進んだ結果、本来は著作権法によって、著者の許諾が必要な場合でも、複写がほとんど野放しになっているのが現状です。あなたが執筆なさった図書がどこかで、誰かによって複写されていても、それを監視することはもちろん、複写のための著作権使用料を徴収することは、個人の力では現実に不可能です。一方、複写する側（利用者）では、著者（著作権者）から許諾をとろうと思っても、複写の都度、著者に直接連絡することは実際問題としてできない相談です。このような不都合を少しでも緩和し、著者の方々の正当な権利を守るために、日本では1991年に翠日本複写権センター（JRRC）が設立され、複写権の管理の代行（著作権集中処理といっています）をしています。欧米諸国にも同様な団体があります。

学術著作権協会（学著協）は、JRRCの三つの会員機関の一つとして、学協会が発行する学術雑誌の複写権の行使の委任を各学協会から受けて、複写許諾と複写使用料徴収の事務をJRRCに委託し、JRRCが集めた複写使用料を学協会に分配する仕事をしています。その過程で行う実態調査などで、研究者が学術雑誌に発表する論文に限らず、図書もよく複写されていることが判明し、学術雑誌だけでなく一般の図書についても、同様な複写権管理の仕組みが必要であると痛感するにいたりしました。

JRRCによる複写権集中処理は、著作権者からJRRCの会員団体への権利行使の委任（委託）に基づいて、代行業務を行うことにしていますので、研究者で著作権をお持ちの著者からは、学著協に登録して頂くことが大前提です。

毎年数万点も発行される新刊図書の著作者全員から委託をして頂くことが理想ですが、それは将来の目標として、さしあたりは単行本についても、学術雑誌と類似の仕組みをスタートさせるため、相当数の委託を受け得たら、JRRCの集中処理機構に平成12年度を目処として乗せたいと考えています。それで、以上の目標を達成するため、あなたがお書きになった図書の予備登録をお願いする次第です。予備登録がある程度の数に達した時点で、JRRCのシステムに乗せる正式登録（権利行使の委託）のため、改めて手続きをお願いすることにしたと思います。

注：(1)登録対象の著作物：研究者が学術雑誌に発表する論文等は

学術雑誌のグループとして扱いますので、予備登録の対象は研究者個人または少数の共著者で執筆された図書とします。さしあたり翻訳著作物は対象から除外します。

- (2)重複登録について：もしあなたの著作物の出版者が、たとえば出版者著作権協議会にあなたの著書を登録している場合は二重に登録されるおそれがあります。私どもの方に登録変更なさってもかまいませんし、そのまま出版者との契約にしたがってもかまいませんが、集めた複写使用料があなたに分配されることを確認されるようお勧めします。
- (3)学著協の活動について：1990年以降学協会（現在数420）が著作権を有する著作物の著作権集中処理を行ってききましたが、今回、研究者個人が著作権を有する著作物の著作権集中処理の仕組みをスタートさせようとしています。
- (4)JRRCの活動について：日本の企業、団体と複写許諾契約を結んで、複写権使用料を集め、一定の方式に従って、著作者団体連合、学術著作権協会、出版者著作権協議会を通じて分配しています。米国の同様な機関であるCopyright Clearance Center (CCC) と提携して、相互の複写使用料を取次ぐよう交渉中です。

上記趣旨の予備登録（無料）にご参加下さる方は、ご氏名（ローマ字付）、連絡先住所（自宅又は勤務先、勤務先の場合は部署、役職も）、電話、Fax又はE-mail、ならびに、著作権をお持ちの各著作物のリスト（書名、ISBN、発行所）を下記に電話、FAX、又はE-mailでお知らせ下さい。

{ 予備登録連絡先 } 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41
 乃木坂ビル 学術著作権協会
 TEL : 03-3475-5618 , FAX : 03-3475-5619 ,
 E-mail : kammori@msh. biglobe. ne. jp

— 複写される方へ —

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、翠日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
 学術著作権協会
 TEL : 03-3475-5618 FAX : 03-3475-5619
 E-mail : kammori@msh. biglobe. ne. jp

— Notice about photocopying —

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)
 41-6 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
 TEL : 81-3-3475-5618 FAX : 81-3-3475-5619
 E-mail : kammori@msh. biglobe. ne. jp

新潟歯学会雑誌の原稿募集

下記の日程で新潟歯学会雑誌を刊行します。奮ってご投稿下さい。その際、投稿規程に従うようご注意ください。

第34巻2号 受付締切：平成16年10月22日
 発行予定：平成16年12月17日

原稿送付先：〒951-8514 新潟市学校町通り2-5274番地
 新潟大学大学院医歯学総合研究科
 加齢・高齢者 歯科学分野
 新潟歯学会編集係

井伊 直子宛

新潟歯学会の演題募集

下記の日程で新潟歯学会雑誌を開催します。奮ってご応募下さい。なお、発表は新潟歯学会会員に限ります。

第2回例会 開催日：平成16年11月13日
 演題募集締切：平成16年9月21日

演題申込先：〒951-8514 新潟市学校町通り2-5274番地
 新潟大学大学院医歯学総合研究科
 顎顔面解剖学分野
 新潟歯学会集係

網塚 憲生 宛

[講演抄録用紙]

演題名

演 者

所 属

[記入例] (等倍で印刷されます)

自由行動下のウサギにおける咀嚼時外舌筋活動について 生理太郎、矯正次郎¹、生理花子

新潟大学歯学部口腔生理学講座，新潟大学歯学部歯科矯正学講座¹

【目的】咀嚼は食物取り込み相、食物粉碎相、嚥下準備相そして嚥下という連続してはいるが異なった運動相からなる。これまでの研究より運動相が異なれば下顎運動や咀嚼筋活動も異なることが明らかになってきた。しかしながら

【方法】実験には15羽のウサギを用いた。ペントバルビタール全身麻酔下(40mg/kg)にて下顎運動記録装置と筋電図記録用電極を両側の咀嚼筋(咬筋、顎二腹筋)及び舌筋(オトガイ舌筋、茎突舌筋)及び嚥下筋に装着した。手術からの回復後

【結果および考察】咀嚼筋と同様に、外舌筋にもすべての咀嚼相を通じてリズムカルな活動が認められた。茎突舌筋については筋活動の持続時間、活動量ともに咀嚼相間における有位差は認められなかったが、オトガイ舌筋については食物粉碎相にはその他の相と比較して筋活動の持続時間、活動量ともに有意な増加が認められた($p < 0.05$, ANOVA and Tukey test).

新潟歯学会雑誌原稿入稿票

掲載希望 巻 号
投稿年月日： 年 月 日
投稿者：
所属：
論文題名：

著者名（全員）：

論文分類：総説・原著・臨床・臨床病理検討会レポート・最近のトピックス・
学会抄録・業績目録・その他（ ）

連絡先（住所、氏名、電話番号（内線）、FAX番号等）：

原稿枚数：本文その他 枚 図表 枚
原稿の内容を下記にチェック
和文題名 和文著者名 和文抄録 本文
英文題名 英文著者名 英文抄録 キーワード
（要校閲） （和語・英語）

フロッピーディスクの添付：

パソコンメーカー名 _____ 機種・型式名 _____

ワープロ・ソフト名（または保存形式） _____ 3.5インチ 枚

チェック項目	チェック	チェック項目	チェック
文書ファイルのリスト（一覧表）を付 けましたか		内容を出力した印字物がありますか	
		FDはコピーしてありますか	
文書ファイルは出力順序通りに入っ ていますか		FDは丈夫なケースに入っていますか	
		不要な文書ファイルはないですか	
		文書ファイルのデータは完全ですか	

別刷りの希望：有（部数 部）・無 表紙 有・無

著者負担分印刷費請求方法：私費・公費（校費・科研費・奨学寄付金）

承 諾 書

新潟歯学会
編集兼発行人殿

平成 年 月 日

私は、新潟歯学会雑誌の定める投稿規定および編集著作物に関する著作権規定により、下記の著作権行使にかかわる諸手続きを委任することを承諾します。

著 者

題 名

氏 名 _____ 印 _____ 印 _____ 印

_____ 印 _____ 印 _____ 印

注 著者が複数の場合は全員が署名、押印して下さい。
投稿の際には、必ず本承諾書を原稿に添付して下さい。

平成16年 8月11日 印刷
平成16年 8月19日 発行

第 34 卷 第 1 号

編集兼発行人

新潟大学歯学部

山 田 好 秋

印 刷 所

株式会社 第一印刷所

新潟市和合町2丁目4番18号
電 話 (025) 382 - 7400 番

発 行 所

新 潟 歯 学 会

新潟市学校町通2番町5274番地
郵便番号 951 - 8514
郵便 口座番号 : 00640 - 5 - 336番
振替 加入者名 : 新 潟 歯 学 会

新潟歯学会雑誌第34巻第1号 目次

総 説

歯科金属アレルギーの臨床 野村修一, 橋本明彦	1
----------------------------------	---

原 著

新潟県の1中学校における顎関節機能に関する自己記入式アンケート調査 八木 稔, 高木律男, 西田康文, 小林秀人, 安島久雄, 池田順行, 山田裕士, 宮崎秀夫	11
心身医学的要因が疑われた顎関節症の5例 野村 務, 高田佳之, 新垣 晋, 齊藤 力	17
舌痛症に対する治療効果と心理テストとの関係 野村 務, 小林正治, 鈴木一郎, 新垣 晋, 齊藤 力	23
進行・再発下顎歯肉癌6例に対する温熱化学放射療法 星名秀行, 高木律男, 長島克弘, 永田昌毅, 藤田 一, 飯田明彦, 田中 賢	27
本院における歯科金属アレルギーが疑われる症例の感作陽性率とアレルギー保有率の変化 小林康子, 橋本明彦, 木暮城二, 野村修一	35

臨床病理検討会レポート

[第25回] 下顎骨粘液腫 山崎 学, 船山昭典, 林 孝文, 鈴木 誠	41
---	----

最近のトピックス

閉塞型睡眠呼吸障害患者に対する口腔内装具の治療効果 高田佳之, 小林正治, 泉 直也, 齊藤 力	45
顎関節用MRI表面コイルの感度補正について 西山秀昌, 林 孝文	49
歯の発生研究の展望と歯の幹細胞ニッチェ: 常生歯形成端を示す新用語apical budの提唱 大島勇人	53
口腔顔面痛におけるDrug Challenge Test 田中 裕	57
くちのかわき(ドライマウス)外来における初診患者の臨床統計的検討 伊藤加代子, 竹石英之, 浅妻真澄, 渡部 守, 船山さおり, 五十嵐敦子, 野村修一, 山田好秋	59

学位研究紹介

歯肉炎と歯周炎における組織浸潤T細胞のクローナリティ解析 伊藤晴江	63
肋骨骨折モデルにおける骨膜の初期軟骨形成と骨形成の組織学観察 李 敏啓	65
嚥下時の喉頭挙上および咽頭食道接合部内圧の神経生理学的研究 福島伸一	67
ラット顎関節におけるエストロゲンレセプター の免疫組織化学的研究 山田一穂	69

新潟歯学会学会抄録	71
-----------------	----

業績目録(平成15年度)	79
--------------------	----

会務報告, 会則, その他	159
---------------------	-----